岐阜市

岐阜市のまち自慢

岐阜市長　細江茂光

岐阜市は、織田信長公ゆかりの岐阜城を頂く緑豊かな金華山や、鵜飼で名高い清流長良川など、自然や歴史・文化に恵まれ、中部地方における主要都市として発展してきました。

県都の玄関口であるＪＲ岐阜駅周辺では、平成10年度にＪＲ線の連続立体交差事業が完成しましたが、北口駅前広場などは未整備であったため、平成14年度に岐阜駅北口土地区画整理事業に着手し、平成21年９月「岐阜駅北口駅前広場」の整備が完了しました。

面積2.65haと全国有数の規模を誇る北口駅前広場では、全てのバス路線を乗り入れるようにしたこともあり、駅利用者が１日あたり約3,500人増加するなど、公共交通機関の利用環境は、大きく改善されました。また、ステージや音響設備を備えた広場中央の「信長ゆめ広場」などでは、これまでに「アースデイ岐阜2011」や「ビアガーデン」など、多くのイベントが開催され、新たな賑わいの拠点が形成されました。

駅前広場の賑わいは、周辺にも大きな影響を与えています。西に隣接する「岐阜シティー・タワー43」は、居住系複合ビルとしては中部圏一の高さ(約163m)を誇り、243戸の分譲住宅が即日完売されたように、中心市街地が持つ潜在能力の高さを引き出す役割を果たしました。その北の、問屋町西部南街区では、176人の権利者全員同意による市街地再開発事業が進められ、来年夏には「岐阜スカイウイング37」が完成予定です。

そうしたことから、今年３月の「週刊東洋経済」に掲載された「駅力」において、ＪＲ岐阜駅が、名古屋駅を除く中部圏101駅の中で、第２位に評価されました。岐阜市は、すでに全国に誇る良好な医療環境をはじめ、教育立市、清流長良川の鵜飼など、多くのセールスポイントがありますが、今後、更に市街地再開発事業や、土地区画整理手法を使った既成市街地における新しい区画整理などによる「まちなか居住」を推進し、まちの活性化を進めてまいります。

岐阜スカイウイング３７はイメージ